

令和5年度 第1回湖南省生涯学習審議会 会議録

日時 令和5年（2023年）7月5日（水）

午後7時～午後9時10分

場所 西庁舎 3階大会議室

出席者 9人

欠席者 3人

1 開会

（1）会議の成立

委員の過半数出席のため成立

（2）あいさつ

会長：（省略）

教育長：

皆様こんばんは。

会長がお話されたように、お足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。

コロナ禍が明けたということで、この会場も以前までは本当に広く使っていましたがグッと距離が近づいたなと改めて思っております。本日は、よろしくお願いします。

日頃は本市教育行政に格別のご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、社会教育委員・生涯学習審議会委員として、すべての人々に、活躍の場と安心して暮らすことができる社会の実現に向け、皆様お一人お一人が、地域の社会教育の牽引役として、大変重要な役割を担ってくださいます。ありがたいことです。日頃より生涯学習の振興、社会教育の推進にご尽力いただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。

さて、この度湖南省では、地域住民が主体的に地域づくりに関わり、行政との協働による新しい公共の形や、地域に関わるあらゆる団体、事業者などが参画することにより、地域の課題をみずから考えみずから決定し、みずから実行する組織を形成し、住民福祉の向上や、住みよい地域の価値を上げる小規模多機能自治の推進を図っています。7月16日から、市内各中学校区にある4公共施設で市長が、皆さんと直接お話をし、市政に関するご意見を伺いながら、市政に対する理解を深めることを目的に、タウンミーティングを実施いたします。事前に申し込みは不要ですので、ぜひ、ご参加いただけるとありがたいと思います。

なお、この計画を進めるに伴い石部文化総合センターは解体をいたします。また、それに伴い石部図書館を閉館するにあたりましては、2館の図書館を1館にすることとなり、このことは、ただピンチとはせず、チャンスとするためのご意見を、先日の図書館協議会でもいただいたところでございます。

本日は今年度第1回の会議ということで、皆様におかれましては、本市の社会教育、生涯学習施策が充実するために、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2 自己紹介

各委員：(省略)

3 市事業の状況について

文化・スポーツについて

総合政策部管理監：(省略)

文化スポーツ課課長：(省略)

文化財について

商工観光労政課課長補佐：(省略)

図書館について

図書館長：(省略)

質疑応答

各委員：(省略)

4 令和5年度役員選出について（報告）

滋賀県社会教育委員連絡協議会理事（市委員代表） 1名

人権のまちづくり会議 1名

人権教育研究大会実行委員会委員 1名

5 報告

会長：

まず、報告事項ですけれども、5月19日に県の社会教育委員連絡協議会第1回理事会、兼近畿地区社会教育委員連絡協議会滋賀大会第2回実行委員会がありましたので、副会長の方から報告をよろしくお願いします。

副会長：

社会教育委員連絡協議会というものは市町の代表の社会教育委員が集まりまして、前年度の事業報告や、今年度の事業計画案、予算などを話し合うものです。会議では、前年度の事業報告と決算報告、そして今年度の事業計画と予算案について審議を行い、計画案が承認されました。

主には9月8日に行われます、近畿地区社会教育研究大会滋賀大会のことについて、多くの時間を割いて話し合いました。これは実行委員会も引き続きその中で話し合われました。もうすでに要綱ができ上がっております。記念講演の講師の方、それから分科会の内容、実行委員会ではそれに伴いまして、司会者や、運営を当日するような役について話し合い、決定されました。

滋賀県で、それも今までになかった大学のキャンパスを会場とするという初めての試みですので、皆様9月8日の日は興味ある分科会の方へ、ぜひご出席していただいて、湖南市が持っている課題、今回のテーマ、これから話し合いをされると思いますが、そういうものも持って、この大会に参加していただいて、それぞれの委員が、他県の方と交流していただいて、何か持って帰っていただければと思っておりますので、ぜひご参加いただけますようよろしくお願いします。

会長：

続けて、5月17日滋賀県生涯学習社会教育研修会の開催がありましたので、出席した委員から簡単にお話しいただいてよろしいでしょうか。

委員：

5月17日の午後に生涯学習社会研究研修会が米原市役所のホールでございました。タイトルは、令和の社会教育生涯学習を考える対話と繋がりをキーワードにということで、講師は新居浜市生涯学習センター所長でした。

講師先生は昭和56年に新居浜市市役所に入られて、公民館の主事として勤務されたのを皮切りに、社会教育・生涯学習関連の部署を歴任されて、退職後は教育長も務められた方です。

お話の全体は簡単に申し上げますと、社会教育と生涯学習のこれまでの歴史と、それから昨年作られた第四期教育振興基本計画を、概観しての説明、そのあと、ご自身の実践活動を紹介されて、最後にこれからの時代の社会教育、生涯学習が大切にしたいこと、またその進む方法について問題定義としてお話しされました。

最後の部分の国の方針の説明とご自身の経験を踏まえての、これからの時代のついていこうところが、メインになりますので、その部分だけ少しだけ詳しくお伝えしたいと思います。

先生は五つの項目を挙げられました。

一つ目は、大和の文化を育てようということで、対話とは、対面で、対等な立場で対立の先に、納得解を見いだす場であると。社会教育にピラミッド型は馴染まない多様性が発揮される柔軟な場であること、それぞれの立場で違う価値観が当たり前、みんなが想いを出せる風土になるようにということです。

二つ目は、自分たちが地域を作る。今は何でもかんでもメリットデメリットという社会風潮がある。ギブ&テイクの損得勘定交換の論理がすべてを決めてしまう地域社会から、受けた恩を時代につなげていく恩送りの論理へ。自分もみんなもずっと幸せ。これはウェルビーイングという言葉で表されますが、この実現を担うことが当たり前になること。

三つ目は、誰一人取り残されることのない学びを作る。生涯学習はいつでもどこでも誰でもと言いながら、TPOで制限がかかっている。高齢者、未就労の女性のための学習や就労者は対象外になっていると指摘されまして、福祉と教育の間の見えない壁、思い込みの目標設定から脱却する必要があると言われました。

四つ目は、子どもたちの未来を創るを超えて、子どもたちが未来を創るへの転換、子ど

もたちをお客さんにするのではなく、子どもの主張に耳を傾け、地域の主人公にすること。そうすることで主体的で対話的で深い学び、探求型の学びを実践するフィールドになる。また、Z世代をターゲットにした居場所を作ること。

最後の五つ目です。チーム社会教育というプラットフォームを作る。孤立しないよう情報共有、中身、悩み事相談ができて、共同活動が生み出される場であること。社会教育士や図書館司書、学芸員、社会福祉士やNPOの方々など、多種多様な専門家と繋がる。他者から学び、よい事例をまねる他力を変えることはすばらしいことだとおっしゃいました。

先生のお話を聞かせていただいて、人との繋がりを作る機能が社会教育にあること、これは今までよくお話を聞いていましたが、先生はそのための対話がまず大事にしなければいけないと、そこを大事にして、ということをいろんな方面からお話されました。

また恩送りという言葉の概念ですけれども、一緒によりよい未来を作るっていう、思考するっていう時の一つのスタンスになると思いました。自分の身につくまで少し難しいかもしれませんが、これを心がけたいと思いました。

会長：

では続けて6月14日、滋賀県社会教育委員連絡協議会研修会の開催がありました委員に出席いただいていますので、報告をお願いいたします。

委員：

研修会の中身は大きく三つありました。

最初に神部純一先生に全般的な社会教育委員の職務役割、どんなところを期待されているかというようなところを、委員活動のハンドブックを使って説明してもらいました。委員の役割は社会教育も今、ありますので、それを実際場面でどういうふうにやっていくかという話をされました。何回も言われたのは、社会教育の独任制で、合議制ではない。個人として責任を持って専門性を身につけて研修しながら、いろんなところに積極的に関わっていくべきじゃないかなっていうようなことをお話しでした。

二つ目は、事例報告ということで県内各市の社会教育委員の事例発表がありました。守山市の社会教育委員会と米原市の2市の発表がありました。

守山市は社会教育委員が、仕掛け人になって、漢検サロンというのを立ち上げた。漢検は学校とかで、検定ありますよね。あれを社会教育の場で設定して、主に現役を退かれた60・70・80のお年寄りとお小学生に的を当てて、来てもらって、漢検やってもらって、それで自分自身、レベルアップしていくのを楽しみながらやる。目的は、世代間交流ということで、小学生ぐらいの子どもたちと、地域に普段居るお年寄りとが顔見知りになっていくと、いろんな意味で地域づくりとか、青少年育成とか、いろんな意味でありますよね。声をかけて、あいさつができるという関係作りも狙っているんだな感じました。成果は、人数的には多くなかったようですが、社会教育委員が具体的に仕掛け人になって、実際に動くということがないと始まらないので、行動力があると感じました。

それから、米原市は社会教育委員が、コミュニティスクール・学校運営協議会を各小中

学校、いろいろ実践されているところに手分けして参加して、話を聞きに行くというスタンスでした。そこに社会教育委員として、支援できることがないのかという視点で、市のコミュニティスクールを盛り上げていこうという視点で、活動しているというお話をされていたことと、もう1点は、他市でも、幾つか社会教育委員と教育委員との意見交換会をやろうという話がありました。それをやろうと思っているということで、地域の人材発掘、教職員の今よく問題になっている、負担を社会教育委員とか、そういう立場の人たちが何かバックアップできることはないかというような話、それから教職員のやりがい等についても話をされていました。

報告市町の報告はその2点でした。やる気を持って行動されているのだなと感じました。

最後は情報交換と全体交流でした。参加者を4～5人のグループに分け、今の事例発表を聞いてそれぞれの市での取り組みとあわせて、どんな感想を持ったかとか、自分たちの市ではどんなことができるだろうというような話し合いを20分ぐらいして、各班から発表しました。

この協議会の研修会でもやっぱり課題としてはリーダーとなる、何かをやろうというエンジンとしての人を発掘する、集めていくっていうのは、課題だなあというのと、情報発信の仕方も、僕らみたいないい年の者がなかなか思いつかないことがいっぱいあります。スマホとかの時代ですのでいろいろな方法を駆使して、考えてもらえるような、人材も発掘していかないといけないのではないかなと意見がでました。子どもたちとそれからもう、リタイアした人との間にも働いておられる方ありますよね。そういう方にいろいろ参画してもらいやすい、何かそういう仕掛けを作ったり、アピールをしていったり、若者たちの行動力とか発想をどんなふうに取り入れていくのかっていうのがこれからの肝になってくるのではないかなということが、かなり今の課題でもあると言われいてまして、最後、結論はそういう形でしたが、30年前とあんまり言っていることは変わらないと内心想っていました。

会長：

この研修会には、3名の委員がご参加いただいておりますので、代表委員の方から報告をいただきました。

6 「地域への愛着と誇りを育てる社会教育」課題解決のための方策について（グループ）

会長：

先ほど副会長からもありましたように、近畿地区社会教育研究大会滋賀大会は、「地域への愛着と誇りを育てる社会教育」というのが研究主題になっています。

前回、この生涯学習審議会で、この研究主題についての湖南市での取り組みについて、現状と課題として、考えていることを、小グループで話し合いをして、課題の共通部分の見つけ出しをしていきました。今日は、その出された課題については次第の次の2ページ以降に資料1として挙げていただいていますのでご確認ください。

今日はこの課題解決のための方策をグループごとに話し合っていきたいと思っています

す。これだけの人数ですので副会長とこちら3人の方で一グループ、私とこちらの4人で一グループということで二グループに分かれて方策を付箋等を書いていって貼っていった後で話し合っ、その後グループで出た意見を発表して交流というふうにしたいと思っています。

(小グループにわかれて話し合い約20分程度)

会長：

1 番目の発表をこちらのグループからしていただいていいですか。

○意見発表

グループ1：

- ・人が集まる居場所と、若い方たちが異年齢交流するチャンスがない。
- ・第4土曜日に湖南省総合体育館でスポーツをやっているが、若いママさんと、子どもさん、多い時で130名がニュースポーツ等で楽しみにしてこられる。居場所づくりとなっている。
- ・下田学区民会議は、いい感じで地域で子どもを育てておられるなと感じた。小学生とお年寄りだとなかなかしゃべれないが、日枝中の生徒会が、ボランティアとして7～8人来ておられたので各グループに入られて、とてもリーダーシップをとられていた。
- ・コロナ前まで、通学合宿というのをやられていた。そして、もらい湯とか、近所のおっちゃん、おばちゃんが晩御飯を一緒に作りに来てくれたり、話をしに来てくれたりということをやっていた。
- ・今のようにお互いのプライバシーを尊重することも大変大事だが、やはりいろんな方としゃべれて、「あれどこの子どもさんやなあ」とか、不審と思われないような挨拶ができるような時代に戻れたらいいと思う。
- ・人が交流していくというのは昔の形もいいかな、と。人が出る場をいろんな形で作っていくということが大事。

会長：

では、もう一つのグループ。どうぞよろしくお願いします。

グループ2：

- ・大きな行事、夏祭りなどは多数の参加者があるが、参加はいいけど、準備は少し面倒やから楽しいことだけ参加しようというような風潮は、湖南省でもあるし、日本全体そうではないか。
- ・祭りは昔から氏子の人たちがするものだったけれども、今はまちづくりのための夏祭りのような祭りもある。その祭りについて興味を持たせるかっていうところで、まずはどういうものなのかっていう、学習や興味を持ってそのお祭りについて知るところが大事で、そういう仕掛けづくりがいるのではないか。

- ・今年度下田小の方では、盆踊りの再開を考えられているそうで、仮装して参加する。それが昔はあって、とても楽しかった記憶がある。子どもの時に楽しかったということは、きっと地域への愛着に繋がる。
- ・子ども中心・子どもの参加など、子どもをまちづくりの中心にし、そこから広がっていくということが、まちが活性化していくという意味では大事なのかなと思う。子どもの時にこんなことが楽しかったっていうのは、将来の宝物になる。
- ・地域の行事に結びついたり、地域のおじいちゃんおばあちゃんの顔が思い浮かんだりしたら、何も言わなくてもそこに愛着と誇りを生まれるのだろうなと思った。
- ・湖南市の中に小さな資源はいっぱいある。石部宿や、紫雲の滝等もある。そのような小さな資源がいろいろあるけれども、埋もれているのを、もう少しその一つ一つに物語性を持たせて、どうなって始まったのかとか、それに関わっているものがどんなのか、一つの小さな資源がどんどん膨らみ、いろいろなものや人に繋がっていき、そこへ寄ってくる人たちが増えていくというようなイメージ。
- ・例えば東海道五十三次で石部は泊まる場所であったっていうのを一つ作って、それに関する物語性っていうのを持たせていく。そこに例えばこういう歴史があるから、ここが宿場町であったとか、枝葉がいっぱい出てくるし、その枝葉がその一言に寄ってくる。
- ・観光ボランティアに案内していただくと、よく勉強しておられるのでとてもわかりやすい。
- ・地域に愛着を持ってもらうためには、地域に居る人間が活動し、続けていくことが大切である。
- ・何回も続けることで、お互いが顔見知りになったり継続したりすることができる。

会長：

白熱してきたところですが、次の議題へ移ります。今、地域への愛着とか、人との繋がりとかが、そういうことが一つ、キーワードとしてあるのかなというふうに思いました。

7 近畿大会分科会討議のポイントについて

会長：

では、次に進めさせていただきます。近畿大会の参加分科会の希望を提出していただいたところ、湖南市の方からは、2名の委員が第4分科会の方に、1名の委員が第2分科会に出席をしていただくということで、県に報告をしたいと思います。

先ほどのグループごとに分科会のテーマと報告の要旨、或いは討議のポイントをもとに話し合ってみたいことや、質問したいことを出していただいて、そのあとまた簡単に報告をしていただきたいと思います。

(小グループにわかれて話し合い約10分程度)

会長：

意見発表していただいてもよろしいですか。

グループ 2 :

・第4分科会家庭教育支援の方は、今現在感じてらっしゃるようなことは、親同士の繋がりがやはり薄い時代だと感じています。話せば解決できるようなことも、トラブルになってしまいがちで、親同士のコミュニケーションを取るにはどうすればいいのかなということを、課題を持ってこの分科会に参加してきます。他市町他県はどういうことをされているのかなということです。

・石見銀山のまちづくりを見ていると、我が子もよその子も全部町の子どもみたいに育てるようなまちづくりをされている。例えば、赤ちゃんが生まれた年の同じ人たちが、親が集まってそこでコミュニケーションをとるとか、それぞれ心地良い場所があればそこで誰かとコミュニケーションを、子どもが小さいうちから親が学習していつ、幼稚園や学校に親が上がってもらいと、違う考えを持った親とも、話ができることになればいいかなとか、他のところはというふうにされているのかなというのを聞いてみたいということでした。

グループ 1 :

・空き家活用による居場所づくりで、今現在、石部のところで空き家を利用して大学生の方や、湖南省の地域おこし協力隊の方等が関わってやっておられる事例があります。普段は、帰り子どもさんが集まれることで、空き家を活用したのと、月に1回か2回キッチンカーを出して、そこで昔遊びみたいなこともやりながら、本とかそういうのも置いていますので、そういうことで、空き家の活用やっています。他の県の空き家活用とか商店街の活性化など、空き家の活用による居場所づくりはどのようにやっておられるのかということを知りたいなというふうになりました。

・キュウリとか、ナスとかいろいろ作っておられる方は、一時期にたくさんとれる。そうするとそれを近所に配ってコミュニケーションをとっている。ただそれだけではなく、子ども食堂等、食べることに必要としておられる方のところにそういう野菜を提供したり、またそれを使って料理を教えたりとか教えてもらったりするような、場を提供するというのが第2分科会の学びのところにも関わるのかなと思います。そのようなことも、お互いにやっていけるような活動も今後考えていったらどうかという話をさせていただきました。

会長 :

ありがとうございます。湖南省の中でもそうですけれども、よその県或いは市はどういうふうにしているのか、聞いていただく絶好の機会でもあるかなと思いますので、今出ました意見等をまた近畿大会の方に出席していただく委員の方々よろしくお願いしたいと思います。

8 今後の事業予定

会長：

では、次第の 8 番の今後の事業予定について、事務局の方からよろしくお願いします。

事務局：（今後の事業予定（案）について説明）

9 次回の会議日程について

会長：

次回の会議の日程について、11 月 28 日火曜日のご都合いかがでしょうか。

（意見等なし）

開始時刻については今日と同じ午後 7 時からということで、会議の内容については、近畿地区社会教育研究大会実行委員会の大会参加についての報告、令和 5 年度湖南市の社会教育についてです。

他にも話し合いたい内容がもしございましたら、事務局の方へご連絡いただいたらと思います。

10 その他

会長：

では、委員の皆様から何かございますか。

（意見等なし）

11 閉会

会長：

これをもちまして、令和 5 年度湖南市生涯学習審議会第 1 回会議を閉会したいと思います。委員の皆様大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

【閉会 21：10】